U.S. Indicators

発表日：2019 年 9 月 3 日（火）

米国 19 年 8 月 ISM 製造業景気指数は 50 割れ

～米製造業の縮小とGDPで潜在成長率の 1.8%成長への鈍化を示す水準～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治（TEL：03-5221-5001）

ＩＳＭ製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
18/09	59.5	61.5	63.1	58.2	53.3	61.6	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.5	58.0	59.3	56.5	50.7	63.2	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	58.8	61.8	59.9	57.7	52.9	61.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.3	51.3	54.1	56.0	51.2	59.0	50.0	54.9	52.8	52.7
19/01	56.6	58.2	60.5	55.5	52.8	56.2	50.3	49.6	51.8	53.8
19/02	54.2	55.5	54.8	52.3	53.4	54.9	52.3	49.4	52.8	55.3
19/03	55.3	57.4	55.8	57.5	51.8	54.2	50.4	54.3	51.7	51.1
19/04	52.8	51.7	52.3	52.4	52.9	54.6	53.9	50.0	49.5	49.8
19/05	52.1	52.7	51.3	53.7	50.9	52.0	47.2	53.2	51.0	49.4
19/06	51.7	50.0	54.1	54.5	49.1	50.7	47.4	47.9	50.5	50.0
19/07	51.2	50.8	50.8	51.7	49.5	53.3	43.1	45.1	48.1	47.0
19/08	49.1	47.2	49.5	47.4	49.9	51.4	46.3	46.0	43.3	46.0

（出所） ＩＳＭ：the Institute for Supply Management

19 年８月のＩＳＭ製造業景気指数（季節調整値）は、49.1 と前月比 2.1%ポイント低下し、16 年８月以来初めて 50 を下回った。16 年１月の 48.0 以来の低い水準となった。米製造業活動は、世界景気の減速、トランプ政権による関税を利用した外交政策に伴う不確実性の高まり、関税引き上げを受けたサプライチェーンの見直し、労働力不足等によって鈍化傾向を辿り、８月に縮小に転じた。８月にトランプ大統領が対中制裁関税第４弾（９月１日）の実施を決定、中国も対抗措置を発表するなど米中貿易戦争の深刻化の影響を受けたとみられる。

８月は、在庫が上昇したものの、先行きの需要を示す新規受注のほか、生産、労働需要の強さを示す雇用、入荷遅延が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、在庫（前月比＋0.08%p）が押し上げ寄与となった一方、雇用（前月比▲0.86%p）、新規受注（前月比▲0.72%p）、入荷遅延（前月比▲0.38%p）、生産（前月比▲0.26%p）が押し下げ寄与となった。

サブ項目では、主要国・地域の製造業活動の鈍化・縮小、世界的な輸出の減少の影響を受け、輸出受注ＤＩは 43.3 と大幅に低下し輸出の減少を示唆している。また、輸入ＤＩは関税賦課などの影響によって 46.0 に低下し、輸入の減少を示している。インフレ関連では、アルミニウム、コルゲート、エネルギー、木材パルプ、鉄鋼製品の価格下落などによって、仕入価格が 45.1 と 50 を下回ってさらに低下しており、川上での物価下落圧力が強まっていることを示した。

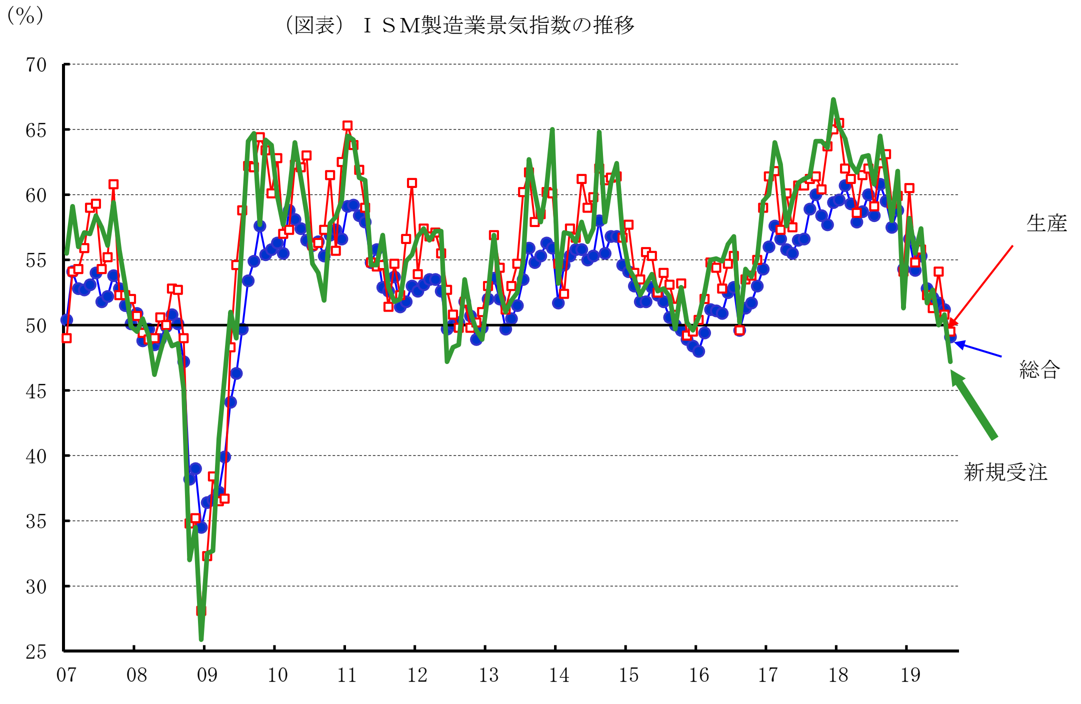
８月のＩＳＭ製造業景気指数（季節調整値）は、総合指数を構成する新規受注、生産、雇用、在庫が拡大縮小の分岐点である 50 を下回り、製造業の縮小を示す水準に低下した。また、８月に拡大した業種は 18 業種中９業種にとどまった。総合（全 18 業種、下線は拡大・縮小が２カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、繊維、家具・同関連、食品・飲料・タバコ、木材製品、石油・石炭、非鉄、一

般機械、その他製造業、化学製品の９業種と前月から変わらなかった。一方、縮小した業種は、アパレル、加工金属、輸送機器、一次金属、プラスチック・ゴム、紙製品、電気設備・部品の７業種と前月の９業種からは減少したが、多くの業種が縮小している。なお、印刷・関連サポート活動、コンピューター・電子機器は変わらずとなった。

企業は、米中の貿易の混乱により新規の輸出受注が一段と低下したことが示すように、米中の貿易戦争は引き続き重要な問題であると報告した。また、中国から製造拠点を移した結果、サプライチェーンの調整が続いていると指摘されており、米企業のサプライチェーンでの過度な中国依存が変化し始めている。さらに、関税の影響等によって電子部品が引き続き不足していることが報告されたほか、事業が良好な化学製品などでも、貿易戦争、景気悪化懸念を強めていると指摘された。

最後に、米経済全体とＩＳＭ製造業指数の関係をみる。ＩＳＭによると８月の 49.1 という水準はこれまでのＧＤＰ成長率との関係から、実質ＧＤＰが 1.8％成長（潜在成長率＋1.8％程度）していることを示すと指摘。製造業が縮小に転じたが、依然として米経済全体は潜在成長率程度の成長を維持していることが示唆されている。

（図表）ＩＳＭ製造業景気指数の推移



（出所）ＩＳＭデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。